

基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	医療 コミュニケーション学		担当教員	笠井正晴 藤井義博		
			総時限数	16時限		講義	単位数	2単位
開講時期	3年次通年				授業形態			

■ 科目内容

実際に学んでいる鍼灸治療を十分理解し適切に行うことができる。
 医療の世界における日本の鍼灸の役割を理解し世界の鍼灸治療環境も理解する。
 鍼灸治療時の患者、家族への接遇や応対を適切に行える。
 個人の尊厳と患者の権利を尊重し治療にあたる。
 医療の他職種の役割を理解できる。
 養生学をまなぶ。
 生命倫理を理解し問題点に対応できるようにする。
 医療をとりまく社会医療制度を理解する。

■ 到達目標

本校の教育理念を理解し 礼と礼節を持った医療人へ成長する。
 鍼灸医療の社会的環境、法制度を理解し治療できる。
 患者の権利を尊重し 守秘義務を 守れる。
 患者への応対マナーを修得する。
 治療に際して医療安全を修得する。

■ 授業方法・教材

教員作成資料や文献資料を活用した教材を用いる。
 医療の他職種と交流し理解する。
 施術者と患者の関係につき、座学と実学でグループや小人数で行い実践する。

■ 学習方法

講義内容、授業テーマを理解し座学と実学で応用できるスキルを学ぶ。
 患者対応スキルを学び実践に生かせる。
 修得したコミュニケーションスキルを生徒間で実践する。

■ 評価基準

期末試験、課題レポート、授業態度で評価

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1、2			生命の発達と生命倫理
3、4			日本と世界の感染症
5、6			コミュニケーションスキルとしてのナラティブ法
7、8			養生の実践
9、10			医療制度におけるコメディカルの役割
11、12			個人の尊厳と倫理問題及び人種偏見について
13、14			鍼灸師を取り巻く社会環境
15、16			鍼灸師にとっての西洋医学的考えの国試への役割

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	臨床医学各論		担当教員	塩崎 郁哉		
開講時期	3年次前期		総時限数	30 時限	授業形態	講義	単位数	4単位

■ 科目内容

今日において様々な疾患があり、鍼灸治療に訪れる方々の病態や疾患も多岐にわたる。鍼灸治療の適応疾患は数多くある一方で、全てが適応というわけではなく、各種医療機関と連携をとりながら治療を進めていく必要がある。また、鍼灸師もチーム医療の担い手としてのニーズも高まってきており、他の医療従事者との共通認識、共通言語を持つことが求められる。

本講義では現代医学の観点から各領域の代表的な疾患の概要を学ぶ。他の専門基礎分野科目の知識と関連づけながら、国家試験の対策のみならず、臨床に活かせる疾患の見方、考え方を身につけていく。

■ 到達目標

・各領域の代表的な疾患について、その概念、疫学、病態、症状、所見、治療、経過や予後を説明できるようにする

■ 授業方法・教材

・教員が作成した資料、プリントを中心に授業を進める
 ・「病気がみえる」各巻（医療情報科学研究所編、メディックメディア）：教室にあり

■ 学習方法

・教科書と教員が配布した資料をもとにして授業を進めていく
 ・解剖学や生理学の知識が本科目を理解するうえで必要になるため、予習・復習では解剖学や生理学の資料と共に勉強することで、相互の理解がより深まる
 ・日常生活にアンテナを張り、ニュース等で出てくる病気や疾患について興味を持ち、その都度調べてみることで理解が深まる

■ 成績評価

・中間試験(50%)、期末試験(50%)

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			代謝・栄養疾患
2			代謝・栄養疾患
3			代謝・栄養疾患
4			代謝・栄養疾患
5			代謝・栄養疾患
6			内分泌疾患
7			内分泌疾患
8			内分泌疾患
9			内分泌疾患
10			内分泌疾患
11			内分泌疾患
12			血液・造血器疾患
13			血液・造血器疾患
14			血液・造血器疾患
15			血液・造血器疾患
16			アレルギー・自己免疫疾患
17			アレルギー・自己免疫疾患
18			アレルギー・自己免疫疾患
19			アレルギー・自己免疫疾患
20			アレルギー・自己免疫疾患
21			アレルギー・自己免疫疾患
22			感染症：細菌感染症
23			感染症：細菌感染症
24			感染症：細菌感染症
25			感染症：ウイルス感染症
26			感染症：ウイルス感染症
27			感染症：ウイルス感染症
28			その他の疾患：婦人科・耳鼻科疾患
29			その他の疾患：皮膚科・眼科疾患
30			その他の疾患：精神心身医学的疾患

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	衛生学・公衆衛生学		担当教員	塩崎 郁哉		
開講時期	3年次後期		総時限数	30 時限	授業形態	講義	単位数	4単位

■ 科目内容

衛生学・公衆衛生学とは個人のみならず地域社会や集団において疾病の予防、健康の保持増進、生命の延長をはかるための科学であり、学問である。公衆衛生の歴史には世界的な発展があり、それと同時に様々な問題がみられていた。現代日本においての生活習慣病、少子高齢社会、感染症問題、環境問題など直面する課題に目を向け学んでいく。

■ 到達目標

- ・健康な生活を送るための我々を取りまく様々な因子を理解する
- ・社会的な動向を理解し、それらを自らの活動領域で活かせるようにする

■ 授業方法・教材

- ・教員が作成した資料、プリント
- ・「公衆衛生がみえる」(メディックメディア) ※参考図書

■ 学習方法

- ・教科書と教員が配布した資料をもとにして授業を進めていく
- ・聞いたことのある言葉や、よく耳にする言葉がよく出てくるため、身の回りに起きている事柄に置き換えて考えてみる
- ・細かな数字は年々変化するため、大枠を捉え理解していく

■ 成績評価

- ・期末試験(100%)

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			公衆衛生と健康の概念・疫学
2			保健統計
3			医療倫理と患者の人権
4			社会保障制度、医療保障制度
5			地域保健
6			成人保健
7			成人保健
8			母子保健
9			母子保健
10			高齢者保険
11			高齢者保険
12			障害者福祉
13			障害者福祉
14			精神保健福祉
15			精神保健福祉
16			感染症対策
17			感染症対策
18			感染症対策
19			感染症対策
20			食品保健
21			食品保健
22			栄養
23			栄養
24			学校保健
25			産業保健
26			産業保健
27			環境保健
28			環境保健
29			国際保健
30			まとめ

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	リハビリテーション医学		担当教員	稲垣侑士 鎌倉 一		
開講時期	3年次通年		総時限数	38時限	授業形態	講義	単位数	5単位

■ 科目内容

単なる機能訓練のイメージを持たれがちなりハビリテーションであるが、本来は「障害を有する人々が可能な限り元の社会生活を取り戻すこと」を意味する。そのため、リハビリテーションには医学に関わる包括的な概念・行為が含まれることになる。本講義では、主にリハビリテーション医学における基本的な概念や、日常生活動作の評価法、疾病・後遺症に対するリハビリテーションなどについて学習する。

■ 到達目標

- ・リハビリテーション医学で用いられる基本的な用語や意味を説明できる。
- ・日常生活動作 (ADL) に関する評価法について説明ができる。
- ・正常歩行のメカニズムや異常歩行への対処法について説明できる。
- ・主に脳卒中片麻痺など、リハビリテーション各論の基本事項を説明できる。
- ・運動器疾患に対するリハビリテーション各論の基本事項を説明できる。

■ 授業方法・教材

- ・教科書：「新版 リハビリテーション医学（公社）東洋療法学校協会編 文光堂（株）」
- ・教員が配布する資料、スライド画像など

■ 学習方法

- ・主に座学での学習であるが、必要に応じて学生同士での実習を行う。
- ・包括的な学問であるため、解剖学、生理学、臨床医学総論、臨床医学各論、衛生学・公衆衛生学などの復習が重要となる。

■ 評価基準

- ・前期・後期ともに期末試験の成績で評価するが、進行次第で中間試験を行う場合がある。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			オリエンテーション・リハビリテーションの歴史
2			リハビリテーションの理念・リハビリテーションに関わる職種
3			国際生活機能分類(ICF)
4			日常生活動作(ADL)評価法
5			疾病に対する医学的介入法
6			疾病に対する医学的介入法
7			廃用症候群
8			廃用症候群
9			運動療法
10			運動療法
11			物理療法
12			物理療法
13			義肢・装具, 車椅子
14			義肢・装具, 車椅子
15			リハビリテーション各論(脳卒中)
16			リハビリテーション各論(脳卒中)
17			リハビリテーション各論(脊髄損傷)
18			リハビリテーション各論(脊髄損傷)
19			リハビリテーション各論(切断)
20			リハビリテーション各論(切断)
21			リハビリテーション各論(脳性麻痺)
22			リハビリテーション各論(脳性麻痺)
23			リハビリテーション各論(関節リウマチ, パーキンソン病)
24			リハビリテーション各論(呼吸器疾患・心疾患, 末梢神経障害)
25			運動学 足関節
26			運動学 足関節
27			運動学 膝関節①
28			運動学 膝関節①
29			運動学 膝関節②
30			運動学 膝関節②
31			運動学 股関節
32			運動学 股関節

33			運動学 骨盤・腰部
34			運動学 骨盤・腰部
35			運動学 肩関節
36			運動学 肩関節
37			運動学 歩行
38			運動学 歩行

※第 1 回～第 22 回は稲垣担当、第 23 回～第 38 回は鎌倉担当の内容です。

※複数の教員担当のため、講義は授業計画の順序通りに進まないことが予想されますので、予めご了承ください。

専門基礎分野

部	昼間部	科目名	関係法規		担当教員	工藤 匡				
	夜間部					開講時期	3年次後期	総時限数	15 時限	授業形態

■ 科目内容

我々日本国民は憲法によって権利や自由を守られ、法律という名のルールに則って行動している。このルールを守らなくてはならない一方で、ルールによって我々は守られていることも忘れてはならない。「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」を学ぶことで、はり師・きゅう師として何を守らなくてはならないのか、どのようなことに守られているのか理解をし、医療としての鍼灸を多くの方に啓蒙していくためにも必須の学問である。またそれに関連づけて他の法律についても学んでいく。

■ 到達目標

・「あん摩マッサージ、はり師、きゅう師等に関する法律」を通して、鍼灸師というだけでなく社会の一員として臨床に必要な法規を理解する

■ 授業方法・教材

・「関係法規」：(社)東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
 ・教員が作成した資料、プリント

■ 学習方法

・教科書と教員が配布した資料をもとにして授業を進めていく
 ・国家試験合格後に関わり合いが強くなる内容も多いが、臨床実習センターのことや自分が臨床勤務や開業することを想像して臨むことで、より理解が深まりやすい

■ 成績評価

・期末試験(100%)

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			あはき法:免許と試験規定
2			あはき法:免許と試験規定
3			あはき法:施術、施術所に関する規定
4			あはき法:施術、施術所に関する規定
5			あはき法:施術、施術所に関する規定
6			あはき法:施術所の名称、広告の規定
7			あはき法:施術所の名称、広告の規定
8			あはき法:施術所の名称、広告の規定
9			あはき法:罰則規定
10			あはき法:罰則規定
11			関係法規:医療法
12			関係法規:医療法
13			関係法規:その他関係法規
14			関係法規:その他関係法規
15			まとめ

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	東洋医学臨床論		担当教員	川浪 勝弘 大塚 吉則		
開講時期	3年次通年		総時限数	38時限	授業形態	講義	単位数	5単位

■ 科目内容

運動器疾患の診察および鍼灸治療に必要な知識を修得する。国家試験に出題される可能性の高い疾患や症候について基本的な事項を重点的に学習する。運動器系の主要症候について適切な診察を行うことができ、鍼灸治療の適否を判断した上で治療が出来ることを到達目標とする鍼灸臨床にとって必要な主要症候のうち、排尿障害、睡眠障害、気分障害などの疾患に対しての疾患の特徴、治療方針、鍼灸治療の方法について学習する。

日常生活における漢方的知識の理解と応用を図る。漢方医学の全体の概念を把握する。

■ 到達目標

- ・臨床上遭遇しやすい疾患に対して、鑑別診断を行うことが出来る。
- ・疾患を把握し、疾患の特徴を説明することが出来る。
- ・国家試験に出題される疾患に対して、重要点を説明することが出来る。

■ 授業方法・教材

教員が作成する資料

■ 学習方法

各疾患の特徴を把握し、鑑別診断を行う。

教員が配布した資料をもとに授業を進めていく。

■ 評価基準

中間試験:50点 期末試験:50点

担当職員 川浪 勝弘

資格 はり師・きゅう師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 札幌センチュリー病院

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			排尿障害
2			排尿障害
3			睡眠障害
4			睡眠障害
5			気分障害
6			気分障害
7			高齢者に対する鍼灸治療
8			高齢者に対する鍼灸治療
9			高齢者に対する鍼灸治療
10			高齢者に対する鍼灸治療
11			全身の症候
12			全身の症候
13			全身の症候
14			全身の症候
15			全身の諸侯
16			全身の症候
17			漢方医学
18			漢方医学
19			鑑別診断
20			鑑別診断
21			鑑別診断
22			鑑別診断
23			鑑別診断
24			鑑別診断
25			鑑別診断
26			鑑別診断
27			鑑別診断
28			東洋医学的考え方
29			東洋医学的考え方
30			東洋医学的考え方
31			東洋医学的考え方
32			東洋医学的考え方

33			まとめ
34			まとめ
35			まとめ
36			まとめ
37			まとめ
38			まとめ

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	病態生理学		担当教員	二本松明 塩崎郁哉		
開講時期	3年次通年		総時限数	53時限	授業形態	講義	単位数	7単位

■ 科目内容

解剖学は人体を構成している細胞・組織や構造について、生理学では正常な状態での生体の機能について学ぶ学問である。病態生理学は、その正常な機能が破綻することにより、様々な症状や疾病が現れる機序について学ぶ学問である。病理学や臨床医学総論・各論で広く学んだ疾病の症状や徴候について、そのメカニズムについて考えるとともに、解剖学、生理学を復習し理解を深めていく。

■ 到達目標

・解剖学、生理学の知識を基に、西洋医学的学問の知識を結び付け、疾病について理解を深める。

■ 授業方法・教材

・教員が作成した資料

・1年次の生理学、2年次の臨床医学各論、総論の資料などを適宜確認

■ 学習方法

・解剖学、生理学を中心に復習をしながら、それぞれの疾患や徴候がどのように成り立つのかを考え、確認していく。

・解剖学、生理学、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論などの復習

■ 評価基準

・中間試験(50%)、期末試験(50%)

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			神経疾患の病態生理
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			消化器疾患の病態生理
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			腎疾患の病態生理
29			
30			
31			
32			

33			腎疾患の病態生理
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			循環器疾患の病態生理
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			
50			
51			
52			
53			

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	社会はり学・きゅう学		担当教員	川浪 勝弘 煤賀 有美		
開講時期	3年次通年		総時限数	16時限	授業形態	講義	単位数	2単位

■ 科目内容

学術講演会、学会などに参加することによって、臨床の現場で行われている最新の知識・技術を学習する。卒前教育の一環として、臨床の現場で活躍している先生方から、地域で期待される鍼灸師の業務や社会貢献のあり方について考える。

■ 到達目標

1. 各学会講演会に参加し、知識を深める。
2. 来校して頂いた先生方の講義・実技に触れ、内容を理解する。
3. 在学中に鍼灸の業界、卒後のことをイメージすることが出来るようにする。

■ 授業方法・教材

参加した各学会の資料
講師が作成する資料

■ 学習方法

学会、学術講演会に参加し、学習する。

■ 評価基準

出席点で評価をする。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			卒前教育
2			卒前教育
3			卒前教育
4			卒前教育
5			卒前教育
6			卒前教育
7			卒前教育
8			卒前教育
9			卒前教育
10			卒前教育
11			卒前教育
12			卒前教育
13			卒前教育
14			卒前教育
15			学術講演会
16			学術講演会

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	はり・きゅう実技		担当教員	阿部吉則 志田貴広		
開講時期	3年次通年		総時限数	76 時限	授業形態	実技	単位数	5 単位

■ 科目内容

特定の疾患をテーマにし、疾患の病態、診察法及び診断（評価）方法について、現代医学的、東洋医学的の立場から治療方針を立て、鍼灸施術を行うことができることを目的とする。また、鍼灸の基礎を振り返りながら、特殊鍼法（中国鍼、長鍼など）や危険部位への刺鍼、施灸のやり方を身につける。

■ 到達目標

- ・疾患別に診察・治療方針を立て、治療を行うことができる。
- ・指示された刺入深度、刺鍼方向、刺鍼角度を行うことができる。
- ・中国鍼を刺鍼することができる。
- ・透熱灸、知熱灸、灸頭鍼を行うことができる。
- ・無理なく、安全に鍼灸施術を行うことができる。
- ・時間を意識して、準備から施術まで行うことができる。

■ 授業方法・教材

教員が作成する資料

■ 学習方法

教員がデモンストレーションを行い、その後ペアに分かれて刺鍼・施灸を行う。

デモ動画を適宜アップロードするので、参考にして練習を行う。

■ 評価基準

実技試験：60%以上

出席率：80%以上

■ 連絡事項

服装：必ず白衣を着用する

持ち物：バスタオル、シャーレにつけるクリップ、施灸道具、配布されたテキスト

担当教員 阿部 吉則

資格 はり師・きゅう師 あん摩マッサージ指圧師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 ユリ治療室

担当教員 志田 貴広

資格 はり師・きゅう師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 みらい鍼灸院

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項目
1			オリエンテーション
2			臨床実習前試験
3			臨床実習前試験
4			中国鍼刺鍼・整形外科的疾患に対する治療(腰部)
5			中国鍼刺鍼・整形外科的疾患に対する治療(腰部)
6			中国鍼刺鍼・整形外科的疾患に対する治療(殿部)
7			中国鍼刺鍼・整形外科的疾患に対する治療(殿部)
8			中国鍼刺鍼・整形外科的疾患に対する治療(頸肩部)
9			中国鍼刺鍼・整形外科的疾患に対する治療(頸肩部)
10			中国鍼刺鍼・整形外科的疾患に対する治療(頸肩部)
11			中国鍼刺鍼・整形外科的疾患に対する治療(頸肩部)
12			中医鍼灸治療学 弁証論治における配穴
13			中医鍼灸治療学 弁証論治における配穴
14			中医鍼灸治療学 弁証論治における配穴
15			中医鍼灸治療学 弁証論治における配穴
16			中医鍼灸治療学 弁証論治における配穴
17			中医鍼灸治療学 運動鍼
18			中医鍼灸治療学 セット鍼
19			中医鍼灸治療学 パルスの取り扱い
20			中医鍼灸治療学 タオルワーク
21			前期実技試験(中国鍼の刺鍼・撚鍼法)
22			前期実技試験(透熱灸・知熱灸・灸頭鍼)
23			頭皮鍼
24			頭皮鍼
25			小児鍼 (圓鍼・鍔鍼・鑱鍼)
26			かっさ療法
27			吸い玉療法

28		吸い玉療法
29		婦人科疾患
30		婦人科疾患
31		長針パルス
32		長針パルス
33		冷え性
34		冷え性
35		便秘
36		便秘
37		鍼灸治療と運動療法（腰下肢）
38		鍼灸治療と運動療法（腰下肢）
39		鍼灸治療と運動療法（頸肩部）
40		鍼灸治療と運動療法（頸肩部）
41		介護術
42		介護術
43		高齢者の鍼灸治療
44		高齢者の鍼灸治療
45		顔面部の刺鍼・耳鍼
46		顔面部の刺鍼・耳鍼
47		後期実技試験（取穴）
48		後期実技試験（徒手検査法・腱反射）
49		後期実技試験（鍼施術）
50		後期実技試験（灸施術）
51		臨床実習前試験
52		臨床実習前試験
53		日本伝統鍼灸の基礎
54		日本伝統鍼灸の基礎
55		日本伝統鍼灸の基礎
56		日本伝統鍼灸の基礎
57		日本伝統鍼灸の基礎
58		日本伝統鍼灸の基礎
59		日本伝統鍼灸の基礎
60		日本伝統鍼灸の基礎
61		日本伝統鍼灸の基礎
62		日本伝統鍼灸の基礎
63		日本伝統鍼灸の基礎
64		日本伝統鍼灸の基礎
65		日本伝統鍼灸の基礎
66		日本伝統鍼灸の基礎
67		刺鍼、施灸の基本動作の確認
68		刺鍼、施灸の基本動作の確認

69			刺鍼、施灸の基本動作の確認
70			刺鍼、施灸の基本動作の確認
71			刺鍼、施灸の基本動作の確認
72			刺鍼、施灸の基本動作の確認
73			刺鍼、施灸の基本動作の確認
74			刺鍼、施灸の基本動作の確認
75			刺鍼、施灸の基本動作の確認
76			刺鍼、施灸の基本動作の確認

専門分野

部	昼間部	科目名	臨床実習		担当教員	阿部 吉則	志田 貴広	
	夜間部					掘 二葉	煤賀 有美	
開講時期	3年次通年		総時限数	46 時限	授業形態	実技	単位数	2単位

■ 科目内容

実際の鍼灸臨床の現場において、これまで学んできた座学および実技の知識・技術を確認し、総合的に応用できる能力を育成する。

■ 到達目標

- (1) 情報収集（医療面接、身体診察、基本的検査、連絡・報告）
- (2) 評価と治療計画の立案（教科書文献的知識と検索、鍼灸の適応・不適応の判断、診療録記載）
- (3) 治療計画の実施（安全で適切なはり・きゅう施術、患者へのフィードバック）
- (4) 鍼灸診療・学習行動の基盤となる態度（患者および他のスタッフへの接し方、自己の能力に即した行動、助言の受け入れ、自己研鑽への意欲）

■ 授業方法・教材

1. 付属臨床センターにおいて、実際の外来患者を相手にグループ単位で臨床実習を行う。
2. 臨床実習の担当グループでない場合には、実技室で講義など受ける。
3. 臨床実習の内容について、診療録および実習日誌に記載し、提出する。
4. クール最終日は症例発表を行う。（昼間部は 1 時限目、夜間部は 2 時限目）

■ 学習方法

臨床実習では実際の外来患者を相手とするため、臨機応変な対応力が求められる。普段から観察力を高め、医学的な疑問を持つことを習慣づけながら、自らが積極的に問題解決するための行動をとってほしい。

■ 評価基準

1. 出席の 8 割を満たさないものには単位を認めない。
2. 期日までに診療録、臨床実習日誌を提出しないものには欠席扱いとなる。
3. 身だしなみが出来ていない者（白衣、装飾品等）は臨床実習に参加できない。
4. 第 3 クールまでに臨床前実習試験に不合格の場合は単位未認定とする。

■ 連絡事項

1. 臨床実習前実技試験で一定の基準に達しなかった学生は、臨床実習のグループには参加せず、フォローアップ実習に参加する。
2. グループ編制についてはクラスで協議し編成する。ただし、クラス内での協議にて問題が生じたときと教務が判断したときは、以後のグループ編成は教務で行うこととする。
3. 詳細については学生の手引き参照すること。

担当教員 阿部 吉則

資格 はり師・きゅう師 あん摩マッサージ指圧師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 ユリ治療室

担当教員 志田 貴広

資格 はり師・きゅう師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 みらい鍼灸院

担当教員 煤賀 有美

資格 はり師・きゅう師、看護師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 SSC ビューティークリニック

担当教員 堀 二葉

資格 はり師・きゅう師 あん摩マッサージ指圧師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 ふたば鍼灸マッサージ院

■ 授業計画 詳細は臨床実習学生の手引き参照

1	4/11(金)	オリエンテーション	28	7/22(火)	第2クール症例報告
2	4/15(火)	導入1	29	8/19(火)	クール3 ①
3	4/18(金)	導入2	30	8/26(火)	クール3 ②
4	4/22(火)	導入3	31	8/29(金)	クール3 ③
5	4/25(金)	臨床実習前試験(実技)	32	9/2(火)	クール3 ④
6	5/9(金)	導入4	33	9/5(金)	クール3 ⑤
7	5/13(火)	導入5	34	9/9(火)	クール3 ⑥
8	5/16(金)	導入6	35	9/12(金)	クール3 ⑦
9	5/20(火)	導入7	36	9/19(金)	クール3 ⑧
10	5/23(金)	導入8	37	9/19(金)	第3クール症例発表
11	5/27(火)	クール1 ①	38	10/3(金)	クール4 ①
12	5/30(金)	クール1 ②	39	10/10(金)	クール4 ②
13	6/3(火)	クール1 ③	40	10/17(金)	クール4 ③
14	6/6(金)	クール1 ④	41	10/24(金)	クール4 ④
15	6/13(金)	クール1 ⑤	42	10/31(金)	クール4 ⑤
16	6/17(火)	クール1 ⑥	43	11/4(火)	クール4 ⑥
17	6/20(金)	クール1 ⑦	44	11/7(金)	クール4 ⑦
18	6/24(火)	クール1 ⑧	45	11/11(火)	クール4 ⑧
19	6/24(火)	第1クール症例報告	46	11/14(金)	症例発表 反省会(アンケート)
20	6/27(金)	クール2 ①			
21	7/1(火)	クール2 ②			
22	7/4(金)	クール2 ③			
23	7/8(火)	クール2 ④			
24	7/11(金)	クール2 ⑤			
25	7/15(火)	クール2 ⑥			
26	7/18(金)	クール2 ⑦			
27	7/22(火)	クール2 ⑧			

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	総合領域 I		担当教員	二本松 明 塩崎 郁哉		
開講時期	3年次前期		総時限数	38 時限	授業形態	講義	単位数	5 単位

■ 科目内容

本科目は総合領域Ⅱと同様、国家試験対策の授業にも位置付けられており、1年次の基礎教科である解剖学・生理学のほか、2年次の病理学や臨床医学総論・臨床医学各論などの重要ポイントを関連付けながら復習していく。複数科目の振り返りを行っていくため、担当教員複数体制で行っていく。

■ 到達目標

- ・問題演習を通して、振り返り、理解を深める。
- ・国家試験の過去問題に正答できる知識を身につける。

■ 授業方法・教材

- ・必要に応じて資料を配布する
- ・解剖学、生理学、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論などの教科書や授業プリントを適宜確認する
- ・国家試験過去問などの問題配布

■ 学習方法

- ・少しずつ国家試験過去問を実施し、問題の傾向や頻度の高い分野を把握する
- ・必ず授業で振り返った内容を再度復習し、身につけていく

■ 評価基準

- ・中間試験(50%)、期末試験(50%)

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			臨床医学各論の復習が中心
13			運動器疾患・呼吸器疾患などの振り返り
14			問題演習などを行う
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

33			臨床医学各論の復習が中心 運動器疾患・呼吸器疾患などの振り返り 問題演習などを行う
34			
35			
36			
37			
38			

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	総合領域Ⅱ		担当教員	塩崎郁哉 二本松明 志田貴広 阿部吉則		
開講時期	3年次後期		総時限数	38 時限	授業形態	講義	単位数	5 単位

■ 科目内容

本科目は国家試験対策の授業にも位置付けられており、主に専門分野（経絡経穴概論、東洋医学概論、東洋医学臨床論）についての知識を深めることを目的とする。

複数科目の振り返りを行っていくため、必要に応じて、担当教員を複数体制で行っていく。

また、後期から各月で模擬試験を実施していく予定のため、模擬試験の実施も含まれる。

■ 到達目標

- ・問題演習を通して、振り返り、理解を深める。
- ・模擬試験を通して理解度や問題の傾向などを確認する。

■ 授業方法・教材

- ・教員が作成する授業プリント
- ・国家試験過去問などの問題配布
- ・必要に応じて資料を配布する
- ・科目により担当教員が入れ替わる可能性あり
- ・模擬試験の実施

■ 学習方法

- ・少しずつ国家試験過去問を実施し、問題の傾向や頻度の高い分野を把握する
- ・必ず授業で振り返った内容を再度復習し、身につけていく

■ 評価基準

- ・定期試験で評価する

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			問題演習とその解説
13			適宜模擬試験を実施し、
14			講義内で模擬試験の解説を行う。
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

33			問題演習とその解説 適宜模擬試験を実施し、 講義内で模擬試験の解説を行う。
34			
35			
36			
37			
38			